

## 2025 年 9 月期第 2 四半期決算説明会 質疑応答集

この質疑応答集は 2025 年 5 月 30 日に開催した 2025 年 9 月期第 2 四半期決算説明会での質疑回答をまとめたものです。なお、一部表現の変更や内容の加筆・修正を行っております。

**Q1. 今期の下期と来年度の利益の出方のイメージを教えてください。今期は上期までは利益進捗は大変良好だったものの、下期はベトナムの新センターの償却費などもあるので通期予想では据え置きとのこと。来年度も新しいセンターを見込んでいますので、来年度も償却費の負担などで利益見込みは弱くなるのでしょうか？**

- A. ー下期は、ベトナムなどの新センター経費の負担が増加すること、及び、食品販売部門で水揚げに係るボラティリティが大きな案件があることから、通期予想を据え置いております。下期は、東北におけるカツオやビンチョウなどの魚の水揚げ状況が、食品販売事業の数値に大きく影響を与える可能性があります。昨年は気仙沼において買付額が 1 位となり、その実績により表彰をいただき、大きく販売量を増やすことができたのですが、今年は水揚げが遅れているとの情報もあり、不確定要素が大きい状況です。そのために通期予想については据え置きといたしました。
- 来期に関しては、冷蔵庫の新設は予定しておりますが、数値予想については現段階においては未定となります。

**Q2. 事業所別 ROIC を導入し、各事業所において浸透させていくとのことですが、現時点または今後、どのような取組を進めていくのかを具体的に教えてください。**

- A. ーROIC 導入により全社員の目線を揃えていくことを考えています。ROIC の数値目標は、事業ごとに設定します。例えば、海外事業、広域流通事業、前浜事業など、それぞれの事業によって目標となる数値は異なってきますが、数値目標を各営業所まで落とし込み、全社員が一丸となって同じ目線で推進していく予定です。

**Q3. 冷蔵倉庫の競合の動向を含めた業界の動向や今後の見通しを教えてください**

- A. ー当社の競合としては運送系、物流不動産系、冷蔵倉庫系と大きく 3 つに分類できます。また、冷蔵倉庫には保管型と通過型があるのですが、運送系と物流不動産系が扱っているのが、冷蔵・冷凍食品の通過型の貨物となります。当社は通過型も運営しながら、当然保管型も運営しておりますので、棲み分けができていると考えております。しかしながら現段階で当社のセンターは順調に稼働しているものの、今後も他業種の大手企業の進出が続くと考えられるため、注視しなくてはならないと思っております。
- 現在、業界全体で、冷蔵倉庫不足となってきています。この要因の一つとしては、冷凍食品がコロナ禍以降急激に増えたこと、そして冷凍食品は原材料よりもかさばることから、より冷蔵倉庫の容積が必要となっていることが挙げられます。このようなコールド

チェーンにおける冷蔵倉庫のひっ迫の課題に対して、当社は物流センターの拡充をし、対応をしていきます。

**Q4. トランプ関税について、直接・間接的にどのような影響が考えられますか？**

- A. ー当社では輸出版売もおこなっており、米国にホタテやブリなどを輸出していますが、ボリューム的には少ないため、直接的な影響は少ないと考えています。世界的な状況で考えますと、他の国からアメリカに輸出されていたものが日本に入ってくるようになることも考えられ、それにより食品の市場環境が変わる可能性もありますが、現時点ではあまり影響は少ないと考えています。

**Q5. ROIC の改善について、主に食品販売部門の改革をあげていますが、棚卸資産の改革など、ROIC 改善のための具体的な施策を教えてください。**

- A. ーまずは棚卸資産の考えを全社で統一することを考えています。今までは販売価格重視でしたが、在庫を回転させるということで、在庫回転の要素を意識していきます。回転率が悪い商材に対しては商材の見直しを行うなどのアクションをおこなっていきます。また、適正な発注と適正在庫を各事業部で各商材ごとに設定し、組織的に仕入・販売に対する意思統一をし、ROIC 改善をしていきます。

**Q6. 総資産に対して有利子負債の比率が高いように感じます。今後、負債を軽くしていく考えなのか、またはその逆もあるのかなど、中期的な予定を教えてください。**

- A. ー経営改善に向けた全部門の実行方針として「投資の適正化による財務健全性の維持」を挙げております。その方針に従い、冷蔵倉庫の建設や、食品販売の方針を設定していきます。財務健全性を維持するために、負債・資本のバランスを意識して経営をおこなっていきたいと考えております。

**Q7. 資本コストと ROIC について、冷蔵倉庫事業についてはどのような方針設定をされるのかを教えてください。特に建築費の高騰などで、方針次第では冷蔵倉庫の新設は抑制するのでしょうか。**

- A. ー冷蔵倉庫事業においては、単年ごとの ROIC ではなく、将来獲得見込みのキャッシュフロー総額を判断基準として、長期の戦略を見据えた方針を作成していきます。また冷蔵倉庫の新センターの建設計画については、建築コストを改めて精査をしながら投資のスピードの適正を図る必要があると考えております。財務の健全性の維持を確保しながらも成長性も見据えて、冷蔵倉庫部門の経営をしていきたいと思っております。

以上